



発行・カトリック水巻教会

編集・広報委員会

遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3

〒807-0025

TEL 093(201)0680 FAX(201)7354

第329号

ホームページアドレス <http://www1.com.ne.jp/~mizumaki>

—教皇様の話から— 「争いはねたみから」 マヘル神父

今月も私の記事として、カトリック新聞の教皇様のお話を皆さんと考えたいと思います。

すべての争い事は人間の心から始まり、ねたみや苦しい思いを抱いた心が誤解や疎外を通して共同体を引き裂いてしまうと、教皇フランスコは指摘した。「私達ももっと私達が誰なのかを思い起こすことが出来ればどんなにか素晴らしいでしょう。主イエス・キリストが私達に下さったことです。」

私達は主の体であり、キリストの内に聖霊から授けられた新しい命の賜物に満たされた教会の体と愛の内に一致しています。教皇は一般会見の講話で、カトリック教会の本質についてのカテケージス(信仰教育)はキリストの体としての教会について説明しました。

洗礼を通して、キリスト者はキリストと一致される。「これは私達が洗礼を受ける日に頂く偉大な賜物です」と教皇は語った。共に集めて頂き、私達自身をキリストに従わせ、主の愛を互いに分かち合って「同じ体の生きた部分になるのです。」

ただ、個々のキリスト者やその共同体が愛し合い、互いに尊重し合う一致の内に生きることは必ずしも簡単ではありません。小教区や活動団体近隣所にさえもあるのが「分裂や嫉妬、誤解や疎外です。」こうしてすべてのことがよくありません。キリストの体としての教会を啓発し、成長させるのではなく、こうしたことは教会を粉々に打ち砕き分断してしまいます。「それが戦争の始まりです。戦争は戦場から始まるのではなく、心から始まるのです」

『 ありがとうと言える心を 』

「それでは、私はどうすればよいのでしょうか？」と教皇は問いかけた。

教皇は、聖パウロがコリントの教会への手紙の中で多くの良い言葉を示していて、当時のコリントの教会は「内紛と分裂に事欠かなかった。」と続けた。その具体的な助言は、現在の私達とっても当てはまることです。「ねたまないこと。」その代わりに、私達の共同体の兄弟姉妹達の賜物や資質に感謝するのです。

私が嫉妬の感情を抱き始めるとき、それは皆さんご存知のように私達は全員罪びとなので、誰にでも起こることです。私が嫉妬を感じ始める時には、こう言うようにしています。『主よ、感謝しています。これをあの人に授けて下さったことを。』

人は分裂して対抗して、「互いに寄り添い、最も貧しく、困窮している人と苦しみ共にして、誰にでも私達の感謝の気持ちを表せなければならぬ」と教皇は強調する。

誰でもがいつも「ありがとう」というのを忘れることがあると、教皇は言われる。「嫉妬が私達をためらわせる」それでも『ありがとう』と言うすべてを知っている心は、「善良で高潔な心です。幸いな心です。」

皆さん、教皇様のお話に倣って実行いたしましょう。

大人の日曜学校	2・3面
委員会報告・教会学校	4・5面
正義と平和全国集会	6面
パウロの歩いた道	7面
お知らせ	8面



大人の日曜学校(10月26日、ミサ終了後実施)の報告

| 信 仰 の 証 し

吉永昌子

(赤間地区)

待つこと、信仰の種はすでに捲かれていることを話したいと思います。

まず父について。私にとって父の存在は大きく、父は、これからの時代は、女性も自立すべきだ、と言っていました。

次に、15歳上の姉。「八重の桜」で知られた同志社女子大学に入学。しかし、京都は寒く、姉にはそれが応えて結核に。英語の塾を開き、賑わっているのを覚えています。一生、独身で過ごしました。今は入院。私はそばにいますので、姉を世話。姉は、「私だけには、世話になりたくない」と言っていました。しかし、最近はお優しい、いい姉になっています。

私の母。母も待つ人でした。若い時には、祖父母に聖書や賛美歌集を焼かれたとのこと。昔の人は、キリスト教の方が出入りするのを見て、嫌がったようです。母は、子どもを授かったら、絶対にキリスト教の教育をさせたいと思っていた様です。母は私と妹に、バプテスト系の学校に入れました。入学は易く、卒業は難しいという学校で、在学の2年間は、学校を駆けまわって学びました。別名、牧師夫人養成所と言われたので、ほとんど遊んでなくて、単位取得ではがんばりました。授業料も県立と同じくらい安かったです。

2年生の時に、大好きな父が亡くなって、寂しい気持ちも背中を押して、洗礼を受けました。そうこうするうちに結婚適齢期を向かえ、結婚は信者の人としなければと考えた。そこで待っていました。すると、職場の方の紹介で、吉永(吉永昌子さんのご主人)と結婚しました。

常に神様は計画を立てていて、結婚というのは、平坦な道だけでなく、山あり谷あり。結婚は、大変な道であると思っています。

私にとって、人生で一番どん底に落ちたことは、最愛の長男が統合失調症という難病にかかったことでした。彼が、大学4年の秋で、神も仏もあるものかという感じで自暴自棄になっていました。私は、その時はプロテスタントでしたが、牧師の長い説教も聞けない状態で、教会にも行けなくなっていました。

ある日、日本を脱出して、自分を振り返りたいと思い、スペインへ旅行を計画しますと、長男が付いてくると言う。一緒に行きました。すると、あるところで長男が「お母さんカトリックに変わって。あとから、洗礼をうけるから」と言うではありませんか。奇跡が起きたのかと思いました。帰国してから、黙想の家が15分の距離にあるので、この時初めてわかったことですが、飛び込んで「転回します」と言いました。

おかげで水巻教会、そのとき司祭はジュリア・ガイアール神父様で、鈴木神父がここに

らして、鈴木神父が司式されて、転回ができました。

息子の方は、大学4年で患い、学業が中断していましたが、大学のゼミの先生が、とにかく卒業させたいと言いました。それがなんと、戸畑教会のカトリック信者。親身になって、卒業させて下さいました。

息子が、カトリックをいいなあと思った理由は、息子がカトリックとの接点がないので、今、振り返ると、その先生が居たからではないかと思います。

約束どおり、1年後に洗礼をうけることができました。

この病気は、死が隣にあり、自殺の恐れが大きい。洗礼を受けたことは大きく、それが阻止されることになります。神の愛を感じたし、家族をいつも見てくださっていると思います。

長男を、吉永が愛し、愛しすぎていると思うのです。病気になったとき、子どもがどんな状態になっても、吉永は、息子を愛している。愛されていると、治りが早い。彼は、今は、アクティブに、世界をまわっています。よい医者に出会って、薬も少なくても良く、人のために何かしたい、と思っているようです。

性格もよく、「ねたみ、そねみ」がなく、人の悪口を言うこともなく、私たちが常に教えられている。

病気を受容して、早いうちに治療できたので治りがはやく、“すごい子どもだ”、私としては、できすぎていると思います。

長男が思っていることですが、ノーマリゼーションの世界、イエス様が望まれている社会だと思います。“元気な人、引き込みりの人、仕事のない人、若い人、障害のある人ない人、一人暮らしの高齢者も、共に助け合って生きていけたらいいね。” 私はこの夢に向かって、歩んで参りました。(期間限定5年間)。皆様へお声かける時は、ご賛同下さい。

私の話で、どこからどう引き出していいか、分かなかったでしょうが、待つことを教えられたということです。

ヘンリー＝ナウエンの本が大好きです。その中の一箇所を言って、終わります。

「受難の中にこそ、神の愛があますことなく、光輝いています。

それは待ち望む愛であり、物事を思い通り、どうかしようとしない愛です。」

お聞きくださって、ありがとうございました。



委員会等報告

2014年11月分

11月度小教区委員会

11月9日

1. 前委員会の確認議事

水巻教会親睦会について
親睦レクについて
聖堂外壁工事について
からしだね配布について

2. 先月の行事報告

10月 5日(日)委員会
10月19日(日)ワックスがけ
10月26日(日)大人の日曜学校
吉永さん 橋本さん 城さん
11月1日(土)
諸聖人のミサ 9時30分
死者のミサ 19時
11月2日(日)死者のミサ

3. これからの活動予定

11月9日(日)七五三のお祝い
11月16日(日)信徒協聖書週間特別講演会 小倉教会
講師ベリオン神父
11月30日(日)司教様公式訪問
水巻教会堅信式 祝賀会 親睦会
12月12日(金)共同回心式
10時 19時30分
12月24日(水)降誕祭前夜祭
19時30分 ミサ後パーティー
12月25日(木)降誕祭 10時
ミサ後パーティー
12月31日(水)ホーリーアワー
23時
1月1日(木)0時 ミサ

元旦ミサ 10時 ミサ中成人式お祝い
茶話会

4. 議題

①堅信式 祝賀会について

●メニュー案をもとに話し合い
・予算を増やして、皆さんに食事をして頂く。
・甘いものが少ないのでは？
・時期的に暖かい物もあったほうが好いのでは？(でも当日の天候次第)
・場所は外だけなのか？信徒会館だけでは狭い。外ならテントは張らないのか？

●話し合いの結果

・中間地区でコーヒーとタピオカを提供する。
・料理の手伝いは10人位に協力して頂く。前日29日買い物、下ごしらえ。
●前もって買えるものは23日に買い出し。

・ぜんざいを作ってもらようようお願いする。

・前日29日16時からテントの準備川島さんに担当をお願いした。

②クリスマス 元旦ミサ

成人式は12月の小教区委員会で話し合う。

③小教区委員会について

・以前から月1回委員会を開いてほしいと言っている。この場で確認したい。

- ・次の議題を教えてほしい。事前準備ができる。
- ・議事録をからしだね発行前に、各委員、小教区委員会メンバーに確認してもらう。そうすればゴタゴタがなくなるのでは？
- ・会議は時間を決めて行えばいいのでは？との意見が出た。
最終的に毎月開催とする方向でまとめた

④12月歳末助け合いについて

●意見として

- ・子どもたちにも参加してほしい。
- ・お金が集まらないとかではなく、やる事が大事。
- ・ちらしなども宣教活動の一つ。
話し合いの結果、川島さんを代表として水巻教会の街頭募金を行う事になった。



教会学校のページ

11月9日

「エッセイの木 カレンダー」

神父さまが資料をくださったので、それを勉強しました。

聖書

創世記

アダムとエバ	3章 1節～24節	8章 11節～21節
ノア	9章 8節～11節	
アブラハムとサラ	15章 1節～ 8節	17章 17節～22節
イサク	17章 17節～19節	21章 1節～ 7節
リベカ	24章 1節～18節	
ヤコブ	28章 10節～22節	

以上を3人で交代で読みました。わからないところがあったかを聞いて、その部分をよく説明しました。

出席者 野田 明日美さん(小5)
平田 綾香さん(小5)
井上 美砂さん(小6)

正義と平和協議会 全国大会(福岡開催) 報告 3回目

9月13日～15日、大名教会で開催された正義と平和 全国大会の報告、3回目です。

「命を大切にできる社会」(パネル討論) 司会 森山神父、 大塚司教、

奥田牧師 バプテスト八幡東キリスト教会(旧北九州ホームレス支援機構・主宰)

奥田 北九州市内の教会を中心に、ホームレス支援二目の前の野宿者、いと、小さきものへの支援を26年、続けてきた。活動すれば、多少、傷つくこと、多少、汚れることは覚悟だ。彼らの場合は、食べる場所がない、住む場所がない、人間の尊厳がなくなっているところである。食べるために残飯をあさっている野宿の人たちに共通の言語がある。

青カン(外で寝る)、エサ取り(食事の確保)。ところが炊き出しの日、カトリック聖小崎の皆さんの炊き出しのお弁当を、彼らはエサと言わず、お弁当と言った。教会のみなさんが作ってくれた。そこに人間が介入している。ものは大事だが、人間の心が大切。

人はパンのみではなく、神の言葉で生きる。人間が居ること、絆。その関係の中で、エサだったものが、お弁当になる。ハウスレスとホームレスは違う。ハウスは、経済状況、家。もちろん食べ物も必要。金銭も。それだけでは人間は生きられない。愛してくれる人の存在。

幸運に支援住宅に入った人を見てみると、真っ黒けだったおじさんが、アパート入って一週間して行ってみると、白くなって、着膨れした人が、脱いで痩せて見える。彼が部屋にポツと座っている。人と人との繋がりが無い。家の中に閉じこもってしまう。

大塚司教 イエスは、貧しい人が幸いと言いつつ、霊魂のことを指して、マタイ書は、心の貧しい人と、心を付けた。しかし、山上の垂訓などの聞いている聴衆は、皆、貧しい。だから「心」を付けなくてもよい。ルカでは「あなた方は幸い」と書かれ、そこでは物質的貧しさ、精神的貧しさの、区別がない。

司会 森山神父 戦後、私達、日本人はまずしさから脱却。しかし、金さえあればできる。幸せになっただろうか。

奥田 実は、私の教会の建物も、新しくなった。先日、献堂式。入り口に定礎(聖句)を置くこととした。それは、「貧しき者は幸い」。私の教会では、出席者の2割3割が、ホームレスだった人。神様しか知らない貧しさ。その貧しさを、主が幸いという。

なぜ、貧しい人は幸いなのか。私は何よりも、**イエスが貧しかったのだ**、と思う。なぜ、食べられない人が幸いか。それは、神様しか知らない貧しさだからである。

私は、果たして貧しいだろうか。自ら、貧しくなろうとする者は、幸いだ。イエスも、神に従って生きようとするから、貧しくなった。それでいいじゃないか。

イエスで表されるすべての事は幸いだ。近づけば、近づくほど、幸い。イエスに近くなる。しかし、常人にとっては、イエスに近づけば、怖い。あの人に付いて言ったら、偉い目にあう。信者は「イエスさん、先に行ってください。」と言いがちだ。(続く)

パウロの歩いた道 No.8

パウロは実家でお金以外に色々な物を持って出発したと思います。そのことは旅先でのパウロの生活から分かります。パウロたちは各地に長期滞在をしたときは、必ずその地で仕事をして生活費を稼いでいました。現地の信者に決して経済的な迷惑をかけないことにしたのです。そのためにパウロは実家の家業であるテント作りを職業としていました。

タルソスを出発したパウロは、高い山が続くタウロス山脈の一部が切れ込んだキリキアの関門と呼ばれる峠を越えました。そしてアナトリア高原に出るとただひたすらに西のキリキア州に向かって歩きました。この旅ではシラスという弟子を連れていました。

西に向かうと一回目の旅で訪れたデルベヤリストラを訪れました。使徒言行録には、この間の旅の行程についてサラッと書いてありますが、実際には地平線の彼方と言っても過言でないほどの長い道のりです。

リストラでは、テモテという弟子を連れていくことになりました。この弟子はパウロにとって大切な弟子となり、後に「テモテへの手紙」という書簡を書くことになります。

「アジアで福音を語ることを聖霊によって禁じられた」と使徒言行録 16章6節に書いてあるとおりパウロたちはトロアスに向かいました。この町はギリシャの戯曲で伝えられた「トロイ戦争」があった古い町です。「トロイの木馬」の話は聞いたことがあるでしょう。

このトロアスでパウロは幻を見てマケドニアに渡ることになります。(16章9節～)マケドニアでのパウロたちの旅については次号にして、少し脱線したいと思います。

使徒言行録を読んで、私にはどうしても理解できない疑問があります。それはその頃の大会であったコンスタンチノーブル(現在のイスタンブール)に弟子たちが行ったという記述が全くないことです。この時代のローマ帝国でコンスタンチノーブルはローマに次いで大きな都市でした。そしてローマが衰退すると東ローマ帝国の首都になりました。

パウロが旅をしていた時代にはすでに大都市でした。ユダヤ人は各地の大きな町に住んで商売などをしていました。パウロたちは最初にユダヤ人がいる町を訪ねて宣教し、その後に異邦人のところに行って宣教をしていました。そうすると国際的な大都市であったコンスタンチノーブルにどうして行かなかったのでしょうか。いろいろな本を見てもこのことについて書いてあるものは見つかりませんでした。

西ローマ帝国で信仰が伝えられたのが、私たちが所属している「ローマン・カトリック」ですが、東ローマ帝国で信仰が伝えられた教会が「ギリシャ正教」です。イスタンブールには、ギリシャ正教の中心の教会があります。ここはびっくりするほど小さな教会で、バチカンとは正反対の質素な教会です。ところが中に入ると絢爛豪華な素晴らしいイコンがびっしりと掲示されています。

イスタンブールには現在は博物館ということになっていますが、アヤ・ソフィアと呼ばれる世界一大きな教会があります。1500年前の素晴らしいフレスコ画がたくさん残っています。

★12月のおしらせ★

★共同回心式★

日時 12月12日(金)
午前10時30分～ 午後7時30分～
場所 水巻教会

なお、この日が都合の悪い方は、他の教会の共同回心式の日程は、「信徒教だより」に載っていますので、ご覧ください

★街頭募金について★

日時 12月14日(日)
時間・場所は未定です。

川島さんを代表として水巻教会の街頭募金を行う事になりました。

これから参加できる方を募ります。詳しいことは、教会のお知らせをご覧ください。

★レプトン会からのお願い★

伊万里のトラピストのクッキーとミサワインの申し込みを12月7日まで受け付けます。売上金はペルーへの支援の一部となります。申込表は聖堂の後に置いてあります。品物は12月24日クリスマスミサ後にお渡しします。

★降誕前夜祭・降誕祭ミサ★

12月24日(水) 午後7時30分～
12月25日(木) 午前10時～

★深夜ミサ・元旦ミサ★

12月31日(水) 午後11時～
ホーリーアワー(祈りの時間)
1月1日(木) 午前0時 深夜ミサ
午前10時 元旦ミサ



今月の聖人

8日 無原罪の聖マリア

大天使ガブリエルが告げた言葉にもあるように、聖マリアは神の恵みの満ちた方です。また、女性としても、人間としても優しさ、慈悲深さ、忍耐などをそなえた方です。

原罪の聖母マリアに対する崇敬は、昔からありました。ピオ9世は、1854年12月8日に「聖マリアの無原罪の宿り」を信仰箇条としました。「人類の救い主キリスト・イエスの功績を考慮して、処女マリアは、全能の神の特別な恩恵と特典によって、その懐胎の最初の瞬間において、原罪のすべての汚れから前もって保護されていた」と荘厳に宣言したのです。

1858年3月25日には、フランスのルルドで少女ベルナデッタに聖マリアが現われ「わたしは原罪がなくて宿ったものである」と言われました。

